

# 管内経済情勢

(平成21年7～9月)

平成21年10月  
富山商工会議所

## 概況

### 全国の動向

◎内閣府が9月11日に発表した平成21年4-6月期の国内総生産（GDP）改定値によると物価変動を除く実質成長率は前期比0.6%増、年率換算で2.3%増と5四半期ぶりのプラス成長となったが、前年同期比では7.2%の減と未だ経済活動に力強さは戻らず。

また日銀が10月1日に発表した9月の短観によると、現在の景況感を示す業況判断指数は大企業製造業でマイナス33と6月の前回調査から15ポイント上向き、海外経済の回復を背景にして2期連続の改善となった。ただ依然として雇用と設備の過剰感は残り、09年度の設備投資計画は過去最低の水準。日銀金沢支店が同日発表した北陸3県の短観も同様に製造業が大きく回復、非製造業も1年ぶりに改善に転じた。しかし円高の進行による輸出企業への影響が懸念材料として残る。

### 富山地区の動向

◎調査対象のうち、前年同期比で売上が増加した企業は11.1%ではほぼ横ばいながら、減少とした企業が74.1%と前期比5.9ポイント減少したため、DIは5.0ポイント改善した。売上単価は、低下したとする企業が20.1ポイント減少し、DIは22.9ポイント改善した。採算については好転したとする企業が3.7%、悪化が70.4%とともに横ばいで、DIも2.7ポイント悪化と小さな動きとなった。

また前期比での業況は、悪化したとする企業が15.0ポイント減少したため、DIは13.5ポイント改善し、2期連続で前期比での改善となった。また来期の業況については、好転とする企業が18.5%、悪化が29.6%でDIはマイナス11.1となり前期比0.9ポイント改善と横ばい。

◎輸送機械では、減税・補助金などの景気対策の効果もあり、中国、インドなどで自動車販売が上向くが、小型車が中心で収益には結びつかない。国内もエコカー人気はあるが、補助金の期限が切れる来年4月以降に再び減速の恐れ。

◎ショッピングセンターなど小売店では、低価格商品やマスク、除菌剤などのインフルエンザ予防商品が人気で、売上は戻りつつあるが主力の衣料品には回復の兆しなく、特にデザイン物の落ち込みは深刻。

◎旅行関係では、海外旅行は円高傾向が追い風となるが、9月のシルバーウィーク以外は全般的に低調。全体としては7-9月の売上は前年の7割程度に止まる。

**付帯調査** ◎主要調査に付帯して「景気の現状をどう見ているか」を尋ねたところ、「足踏み状態」が前期とほぼ同じ48.1%で2期続けての最多回答となった。これに次ぐのが「大きく後退している」で25.9%、「緩やかに後退」が11.1%となった。また、「売上の下げ止まり感」については、「依然下がり続けている」が40.7%で最多であり、「下げ止まったが、低水準」が22.2%、「回復に転じた」は11.1%であった。

---

## 1. 生産活動

---

**一般機械** ◎新規設備投資の激減で、産業機械関連は低調。工作機械などは受注回復のメド立たず、生産調整を継続。

**電子部品** ◎産業機器向けの固定抵抗器やハイブリッドICは依然低調ながら、薄型テレビ向けの複合部品や携帯電話向け抵抗器などの受注は伸びてきている。

**輸送機械** ◎ハイブリッド車向けモーター部品など一部で引合い強まり、生産活動は上向き。ただし車種に偏りがあり全体としては、未だに受注不足。

**プラスチック** ◎一般的に消費者需要は盛り上がりせず、携帯電話用部材が振るわなかったのに加えて、医薬品容器も大衆薬向けなど一部で売れ行きが鈍かった。

**医薬品** ◎ジェネリック薬は全般に好調ながら、配置薬は低調なままで、経営状況の良いところと悪いところとの格差が広がってきている。

**紙・紙加工** ◎ユーザーの在庫調整は進んだが、チラシ、カタログなど商業印刷用洋紙は企業の広告費削減で不振が続き回復の兆しは見えてこない。

**リース** ◎ハイブリッド車、LED照明等省エネ関連設備、医薬品製造業関連設備などは好調に推移するが、その他の業種とくに建築、土木では設備投資を見送る企業が多く、売上は下げ止まったものの低い水準が続く。

**物流** ◎国内製造業が生産調整を継続していることによる貨物の減少に加えて、木材・アルミなど住宅建材や円高による輸出品の減少で売上は低迷が続く。

**電力使用量** ◎県内の電力使用量（製造業/大口契約/北陸電力調べ）は前年同月比で7月19.5%減、8月16.4%減、9月7.9%減とマイナス幅は縮まってきつつあるが、昨年4月以来18ヶ月連続で前年同月割れが続く。

---

## 2. 消費関連・物価・その他

---

### 大型小売店・専門店

- ◎ 県内の大型店の売上高（百貨店＋スーパー、既存店／中部経済産業局調べ）は、衣料品の売上が依然低迷しており、前年同月比で6月は4.5%、7月は6.7%、8月は7.0%いずれも減少。
- ◎ 百貨店では消費者の低価格志向に歯止めがかからず、高額品や衣料品は引き続き低迷。
- ◎ ファッションビルは消費の低迷、高額商品敬遠の流れを受けて、衣料品の不調が続く。僅かにエステティックなどに動きが見られた。
- ◎ 婦人服専門店では、衣料品が全般的に不振だったが、衣料以外のバッグ類やスカーフ、ストールなど小物雑貨は比較的好調に推移した。
- ◎ 家電では、今夏の天候不順でエアコンが伸び悩んだが、エコポイント効果は持続しておりポイントの高い高級機種が順調。

### 青果卸

- ◎消費者の可処分所得落ち込みの影響で、低価格品へのシフトが進み、果実の売れ行きは極端に落ち込んだまま。また、小売間の価格競争が激化し、取引条件が厳しさを増す。

### 旅行・飲食

- ◎旅行ではシルバーウィークは好調だったものの、長引く不景気、新型インフルエンザ、夏の天候不順、総選挙と悪条件が重なり需要は冷え込んだまま。
- ◎飲食店では企業の宴会利用が減少、僅かに学校関係の宴会のみ前年並み。下期に向けて忘新年会需要の冷え込みが心配で低価格なコースなどの開発を検討。

### 情報関連

- ◎ ユーザーのIT投資意欲は減退しており、ソフトウェア開発の業況は悪いまま推移。

### 新車販売

- ◎8月の自動車登録台数（軽自動車を除く、富山県ベース）は、エコカー減税や補助金の導入でハイブリッド車が増加したことなどにより前年同月比109.0%と1年1ヶ月ぶりに前年同月実績を上回った。当四半期（7-9月）ベースでも105.0%。（富山県自動車販売店協会調べ）。これに対して軽自動車は減少幅は小さくなったものの、7月に前年同月比102.0%となった他は依然前年割れが続く、当四半期は前年比4.8%の減となった。（富山県軽自動車協会調べ）。

建設工事	◎富山市内の新設住宅着工戸数は、前年同期比6月7.9%減、7月51.1%減、8月33.7%減と低調に推移。一方県内の公共工事受注は前年同期比で7月が4.5%増、8月2.0%増、9月22.5%増と3ヶ月連続して増加。（富山県・東日本建設保証(株)富山支店調べ）。
物価	◎富山市の消費者物価指数（平成17年＝100）は、食料などの値上がりを受けて、6月＝99.6、7月＝99.6、8月＝100.0と上昇傾向。ただし前年同月比では自動車関連費、光熱費などが下落したため、8月では2.6ポイント前年を下回った。
原油価格	◎原油先物価格（ニューヨークWTI・月平均）は、7月＝64.29ドル/BL、8月＝71.14ドル/BL、9月＝69.47ドル/BLと下落気味に推移。
為替相場	◎円ドル相場（東京市場／中心相場・月平均）は、7月＝94.50円/ドル、8月＝94.84/ドル、9月＝91.49/ドルと約8ヶ月ぶりの円高水準。

### 3. 労働

有効求人倍率	◎富山公共職業安定所（ハローワーク富山）管内の有効求人倍率（季節調整前）は、6月＝0.45、7月＝0.44、8月＝0.45と2月以来7ヶ月連続で0.50を割り込む。富山労働局は「依然として低水準。県内は景気の動向に左右されやすい製造業の割合が高いこともあり、厳しい状況が続いている」としている。
--------	---

### 4. 企業倒産

県内の企業倒産	◎当期（7～9月）の県内の企業倒産（負債総額が1,000万円以上／東京商工リサーチ調べ）は、件数は前年同期比14件増の43件、負債総額は4.8%減の229億8千5百万円となった。7月に約146億円の大型倒産があった他は1億円未満が多く、小口倒産の多発傾向が進む。
---------	---